

屋根板には木製のものと鋼板製のものとがある。木製のものは一般にさねはぎの短ざく張り、木たるぎに木ねじ止めとし、その上に車両用屋根張防水布を張ってある。鋼板製のものは薄鋼板を用い、これを直接鉄たるぎに溶接またはリベットで止めてある。鋼板製のものでは一般に屋根張防水布は張らないが、電車では電気絶縁をはかるため絶縁屋根張防水布を張ってある。屋根張防水布はアスファルトを十分浸透させた綿帆布（または亜麻帆布）と粗麻布とを、アスファルトをはさんで、のりづけし、その表面に砂をすき間なく圧着して作ったもので、通常これを5枚張りして使用している。とくに電車の鋼板製屋根に使用する絶縁屋根張防水布は、塩化ビニールの裏面にナイロンまたはビニロンの化繊を接着したもので、その表面にはすべり止めのための突起が設けてある。(林 正道)

やひこせん 弥彦線 弥彦駅から西吉田に至り越後線と接続し、東に延びて東三条で信越本線と接続、さらに東進して越後長沢駅に至る25.3kmの線。信越線に属し線路等級は丙線である。大正5・10 弥彦・西吉田間、大正14・4 西吉田・東三条間、昭和2・7 東三条・越後長沢間と越後鉄道株式会社によって開通されたが、昭和2・10 政府に買収され、弥彦線と呼ぶことになったものである。(森 梯寿)

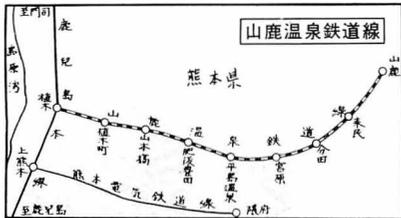
やべせん 矢部線 鹿児島本線羽犬塚駅から東方黒木駅に至る19.7kmの線。鹿児島線に属する丙線である。昭和20・12 羽犬塚と矢部を結ぶ鉄道として羽犬塚・黒木間開通、矢部線と呼ぶこととしたものである。(森 梯寿)

やま 隧道用語であって、[やまが悪い]は土質が悪いこと、[やまが来た]とは土砂または岩石がくずれて来たことをいう。(松島 甫)

やまがおんせんてつどう 山鹿温泉鉄道

1 事業者の概要

名称 山鹿温泉鉄道株式会社、本社 熊本県山鹿市大字山鹿、資本金4,000万円、おもな事業 地方鉄道、一般貸切旅客自動車運送。鉄道従事員79人、保有車両 蒸気機関車2、内燃自動車4、客車2、貨車8両。



沿革 大正4・11 鹿本鉄道株式会社設立、同6年植木・肥後豊田間を創業、以後逐次路線を延長し、昭和27・7 商号を山鹿温泉鉄道と変更現在に至る。

2 運輸概況

項目	年度		
	昭和28	29	30
旅客輸送人員(千人)	645	754	742
人キロ(千)	5,790	6,990	6,721
貨物輸送トン数(千t)	24	35	31
トンキロ(千)	408	589	524
旅客収入(千円)	12,917	14,789	14,851
貨物収入(〃)	6,706	8,582	7,438
運輸雑収(〃)	1,606	2,787	2,952
収入合計(〃)	21,229	26,158	25,241
営業費(〃)	32,447	26,178	26,381
営業利益(〃)	△ 11,218	△ 21	△ 1,140
営業係数(%)	153	100	100

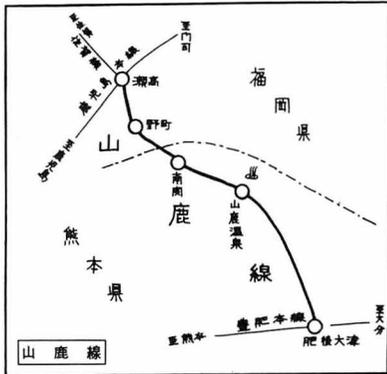
3 地方鉄道線

鹿児島本線植木駅に連絡、植木・山鹿間(熊本県)20.3km単線、動力蒸気・内燃、軌間1.067m、旅客・貨物輸送を目的とする。大正5・12・14 免許、同6・12・22 より同12・12・31 までに全線運輸開始。

4 沿線の観光地

山鹿、熊入、宮原、平島等温泉が多い。(嵯峨野 福次)

やまがせん 山鹿線 熊本県菊池郡大津町から福岡県瀬高町に至る国鉄自動車路線であって、所管する自動車営業所は熊本県鹿東郡山鹿町(山鹿)にある。



1 区間およびキロ程

山鹿線 瀬高・肥後大津 62km。

2 沿革 肥後大津・南関 昭和10・8・21 開業、南関・瀬高 昭和16・12・1 開業

3 営業範囲 旅客・手小荷物および貨物の取扱をしている。

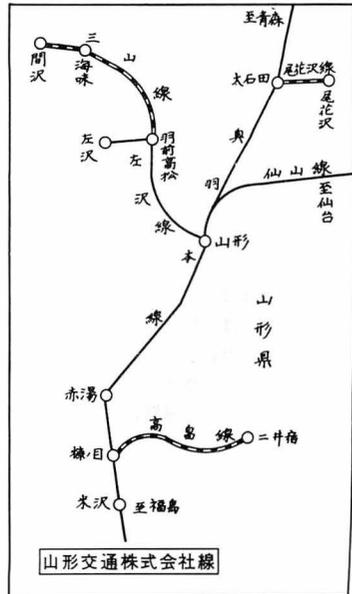
4 使命 鹿児島本線と豊肥線を瀬高駅および肥後大津駅で連絡する鉄道の短絡路線であり、全線が鉄道敷設法予定線に該当し、鉄道の代行路線でもある。

5 特長 この路線は熊本県北部平野を横断する地方産業開発路線であって沿線の山鹿温泉は、後白河天皇の保元2年宇野親治なるものが狩に出て、溪谷の泉に鹿の群が浸っているのを見て、温泉を発見したものとされる。(松沢信之)

やまがたこうつう 山形交通(鉄道)

1 事業者の概要

名称 山形交通株式会社、本社 山形県山形市香澄町、資本金35,000万円、おもな事業 地方鉄道業のほか一般乗合旅客自動車運送事業路線1,381km、一般貸切および一般乗用旅客自動車運送事業。鉄道従事員177人、保有車両 蒸気機関車1、電気機関車1、内燃機関車2、電動客車8、客車10、貨車33両。



沿革 大正12・5 山形県下羽前高松・海味間の鉄道敷設免許を受け、同13・8 資本金70万円の三山電気鉄道株式会社として発足、その後昭和18年政府の要請により地方交通の統合を前提として、同年2月山形交通株式会社と改称し、同10月高島鉄道(糠ノ目・二井宿間)および尾花